

開催地名：広島県竹原市	
開催日時	令和3年2月27日（土） 10：00～11：50
開催場所	竹原市民館
語り部	吉田 亮一（宮城県仙台市）
参加者	市内の各種団体（女性のみ） 24名
開催経緯	<p>南海トラフ巨大地震の発生確率も高くなっていることから、一昨年、広島県は沿岸部の市町に対して津波災害警戒区域を指定したが、瀬戸内海ということで今ひとつ市民の危機感が希薄なのが現状である。また、過去には土砂災害や洪水災害、高潮災害は経験しているものの、市域では大きな地震や津波の経験がないことから、要配慮者等の避難対策を含めて実施できていないため、語り部による講演会を開催して、防災意識の向上を図ることとする。</p>
内容	<p>（1）防災の基本</p> <p>東日本大震災発災時、私は仙台市で保育園を経営する傍ら、地元仙台市太白区茂庭台5丁目町内会の防災統轄をつとめていた。現在は、YY防災ネットより依頼を受けて、年間30回程度、全国で防災講座を実施している。防災の基本は立場や役割に関係なく、自助・共助・公助と全ての人に関係する。全てに共通しているのは災害への危機感であり、心配ない・あり得ない・大丈夫・まさかと考えることは慎んでほしい。ニュース・新聞等でよく耳にする「想定外」とか、「予想だにできなかった」といったような言葉があるが、防災は危機感と想定以上の備えが基本なので、様々な自然災害に備えて、全ての責任者は最大の危機感と想定以上の備えで命を守ることを意識していただきたい。</p> <p>（2）事前の備えと避難所運営</p> <p>東日本大震災発生から遡ること約5年。平成18年に、当時幼稚園の理事だった私は、月に1度義務付けられていた幼稚園での防災訓練をベースにして、地域防災を立ち上げ、防災活動をスタートした。地域の防災マニュアルを自分たちで作成し、各役割の分担も年ごとに持ち回りで行った。こうすることによって、各住民に全ての役割を担ってもらうことができた。そして、毎年、全ての方を対象とした総合防災訓練を昼間、夜間と大地震が起こった時を想定して2つの時間帯で行った。更には、平日の日中に働いている大人の協力を抜きにした、小・中・高生を中心とした訓練も実施するとともに、地域内の介助者として、かつて医師、介護士、学校の先生などの職についていた方々を募り、災害時の協力体制も整備した。</p> <p>防災備品についても、毎年少しずつ購入を進めた。無線や発電機、投光器といった高価なものから、災害時にきわめて重宝する「在宅介護用トイレ」も揃え</p>

た。このような活動のおかげで、東日本大震災の際には、訓練どおりの手順で避難することができ、避難所でも備品を活用することができた。

地域防災の「地域」とは、地域内すべてを指す。家庭保育園、保育園、幼稚園、学校、消防、警察、商店会、商工会議所、医療機関、高齢者施設、企業等すべてが地域防災に関係する。行政の様々な組織と連携するとともに、地域の学校との連携も必要である。特に学校は、災害時に指定避難所として開放されるケースがほとんどなので、学校での防災訓練の実施と、地域住民の参加が求められる。

以上のように、平成18年からの5年間で行っていたことを実践しただけで、各避難所の運営はスムーズに行ったと思っている。その中でも、避難所開設時から閉所するまで、小学生から大学生までの子ども達が、それぞれができることを役割分担し、清掃、炊き出し、生活水の確保、救援物資の管理、掲示板の運営等々、貴重な戦力として活躍してもらったことは、是非紹介しておきたい。

(3) 自助の大切さ

将来起こるであろうと言われている大地震に備えて、事前に住民一人ひとりが、災害に対しての知識を蓄え、発災後は共助へとつながるように意識していただきたいと思う。具体的には、住宅の耐震整備（外壁を含む）、室内の点検（家具の固定）、備蓄品（食料、水など1週間分）の確保、車の燃料をこまめに満タンにすること、家族間での災害発生時の安否確認や連絡方法、非常用持出品についての確認等が挙げられる。災害に対して危機感を持って想定以上の備えをしていただきたい。全ての責任者は、最大の危機感と想定以上の備えで、命を守ることを是非お願いしたいと思う。



開催地より

東日本大震災以前から実施していた「備え」や、震災発生時の避難所運営について、とても分かりやすくお話いただいた。当市でも、自主防災組織や女性（婦人）防火クラブの加入促進キャンペーンの実施や、備蓄（非常食）の追加及び住民に対する備蓄の呼びかけを行っていききたい。